

八戸市立市民病院に通院中の 高齢者糖尿病におけるサルコペニアの現状

工藤 貴徳¹ 八戸市立市民病院内分泌糖尿病科

Key-Words

サルコペニア／高齢者／糖尿病

抄 録

[目 的]

サルコペニアの頻度については、高齢者全体の10%以上で認められ、特に糖尿病患者では3倍に上昇するという調査報告がある。今回、Asian Working Group for Sarcopenia (AWGS) で提唱されたサルコペニア診断アルゴリズムを用いて、高齢者糖尿病におけるサルコペニアの現状について評価することにした。

[方 法]

65歳以上の2型糖尿病患者で、DXA法の検査を行った297例を対象とした。

[結 果]

サルコペニアと診断されたのは男性20例(12.4%)、女性4例(2.9%)、計24例(8.1%)であった。またサルコペニアと診断された群では、高齢で、骨粗鬆症・認知症があり、BMI低値、低栄養傾向、インスリン分泌能低下がみられ、糖尿病罹病期間も長かった。

[結 論]

過去の調査報告と比較してサルコペニアが少なかったが、地域特性の可能性も考えられた。サルコペニアと診断された方は少なかったものの、握力低下を認め、筋の質の低下が進行していることも多く、より早期の介入が必要であると考えられた。

はじめに

2017年の調査では「糖尿病が強く疑われる者」と「糖尿病の可能性を否定できない者」を合わせると約2,000万人である。「糖尿病が強く疑われる者」と「糖尿病の可能性を否定できない者」の年齢別の割合でみると、60歳以上が全体の50%以上を占めており、糖尿病患者の高齢化が進んでいるのは明らかである¹⁾。

高齢者糖尿病に対する前向き大規模臨床介入研究(J-EDIT研究)(J-EDIT: Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial)²⁾では、LDL-C高値が虚血性心疾患の危険因子であり、HbA1c高値、高血圧、non-HDL-C高値、身体活動量の低下、うつ傾向が脳卒中発症の危険因子であることが明らかとなっている。

身体活動量の低下に関連して、最近話題になっているのがサルコペニアであるが、サルコペニアは加齢に伴う筋力の減少、または老化に伴う筋肉量が減少することで、機能が低下した状態のことである。その頻度について、高齢者全体の10%以上で認められ、特に糖尿病患者では3倍に上昇するという調査報告がある³⁾。

今回、Asian Working Group for Sarcopenia (AWGS) で提唱されたサルコペニア診断アルゴリズム⁴⁾を用いて、高齢者糖尿病におけるサルコペニアの現状について評価することにした。

¹ Takanori Kudo
〒031-8555 青森県八戸市田向三丁目1番1号
E-mail: t-ku-do@pb3.so-net.ne.jp

著者のCOI (conflicts of interest) 開示: 本論文発表内容に関連して特に申告なし。